

令和7年度 長崎大学教育学部附属小学校 学校だより

「らしき」輝く附属小



第33号 令和8年 2月13日(金) 校長 森内 秀学

研究発表会

2/6(金)、国立大学附属学校の使命でもある研究発表会が、無事終了しました(下)。



今年度の研究テーマは、「自律した学び手を育てる」。自己実現に向け、学び方や頼り方を適切にコントロールできる子どもの育て方について、22本の授業を通して提案しました。

参観者は、320名。そのうち、県内の参観者は189名

でした。当日御協力いただいた保護者の皆様、寒い中、本当にありがとうございました。

出張研修の多くは、誰か一人、多くて二人が、学校を代表して参加し、学校に戻って他の教職員に伝達する形です。つまり、この参観者の数の後ろには、何倍、何十倍もの教職員が、伝達を待っているということです。そう考えると、本校の研究発表会が他校に与える影響というのは、とても大きいものがあります。

授業者は、年間を通して挑戦と失敗を繰り返しながら案を練り、子どもを育てます。

そうして当日、イメージどおり、もしくはそれに近い子どもの姿を参観者にお見せできたとき、努力が報われた気持ちになり、心の中にも自信や充実感が広がってくるのです。これを毎年経験するのですから、本校の教職員の授業力が上がらないはずはありません。

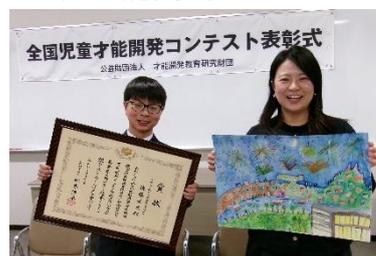
附属小は、子どもや保護者に選ばれる学校です。22本の授業を見たあと、私は、選ばれるにふさわしい学校だな、と自信をもって思えました。



すごい数でした～受納式～

各種いろんな取組で表彰された子どもたちを全校で紹介する受納式を、2/10(火)に行いました。国や県が主催する大会で県3位以上、民間団体が主催する大会で県1位など、厳しい制限を設けたうえでの開催でしたが、左のようにすごい数の子どもたちが賞と共に紹介されました。

中でも大きな賞をいただいたのは、才能開発コンテストで文部科学大臣賞を受賞した佐藤栄太さん(右)。学校にも奨励賞として賞状と大きな図



鑑を10冊もいただきました。表彰は、自分らしさを発見するきっかけです。みんなますますがんばってほしいですね。